

2/25(土)のカルチャースクール(緩和ケア講座 ~穏やかに生きる)の様子が、新聞記事に掲載されました。

富士ニュース

ことだという。
遠藤院長はフラン
スのモラリスト、ラ・

ロシュフォーコーの言
葉「人間には見詰め続
けることができないも
のが2つある。太陽と
死だ」を引用し、患者
だけではなくケアをす
る人にとってのスピリ
チュアルペインの存在
を指摘し「ケアを通し

て自分の中の叫びに気
付く。傷ついた心を
持った人がスピリチュ
アルケアの担い手にな
れる」とした。
同講座は、職員の勉
強会と地域への医療機
関としての貢献を目的
に開いた。



講師を務めた遠藤院長

心の叫び聞いて

湖山病院で緩和ケア講座

富士市大淵の湖山病
院で25日、緩和ケア講
座が開かれた。
同病院職員、デイ

サービス利用者、地域
住民ら約100人が、
必ず訪れる人生の最期
とどのように向き合
い、寄り添うのかを考
えるきっかけとした。
たんぼ診療所(静
岡市)の遠藤博之院長
が、「本当に大切なも
のを求めて」という演
題で、健康の定義や病
気に伴う痛み、不安、
スピリチュアルペイン
などについて話した。
スピリチュアルペイ
ンは、病气や老いから
くる「なぜ私がこんな
苦しい目にあわなけれ
ばいけないのか」「な
んのために生きてきた
のか分らない」とい
った痛みを意味し、
スピリチュアルケアは
病气や老いで気持ちが
落ち込んでいるときに
「やっぱり生きていて
良かった」と思っても
らえるよう働き掛ける

湖山病院カルチャースクール スピリチュアルケ アなどに理解深め 遠藤院長(たんぼ診療所)が講演

院主催の第31回カルチャ
ースクール「緩和ケア講
座「穏やかに生きる」
が25日、同病院多目的
ホールで開かれた。た
んぼ診療所(静岡市
駿河中吉田)の遠藤博
之院長が「本当に大切
なもの求めて」弱さ
からの出発」と題して
講演した。



講演する遠藤院長

内科を受け持つ同診
療所は、病や老いなど
のために気持ちが落ち
込んでいく時に「生き
ていてよかった」と思
えるような「スピリチュ
アルケア」を提供して
いる。
講演の中で遠藤院長
は「悲しみやつらい経
験から自らのどうする
こともできない弱さを
自覚した時、その弱さ
ゆえに一緒に歩いてい
けるのではないかと考
えている」と述べ、病
を負い、悲しみの中に
あったり、苦しいこと
に遭遇した人たちが支
える診療所のあり方を
語った。
自宅で最期をみとる
スピリチュアルケアの
中で、亡くなる前に自
分が生きてきた軌跡を
残し、周囲に別れを告
げて永遠の眠りに就く
大切さを説いたほか、
「人生の中でいろいろ
なものを失うが、同時
にさまざまな足跡を残
す。命が限られた時、
残された時間を大切に
し、手紙でもよいから
愛する人たちに何かを
伝えてほしい」と述べ
た。

また、患者の最期を
みとる時、その人の死
に戸惑い、声をかけら
れずにいた看護師の話
を例に挙げ、「人間が
見詰め続けることがで
きないものは太陽と死。
患者を大切に思う気持
ちが強いほど、つらさ
は大きくなり、黙って
寄り添うことしかでき
なくなる」とスピリチュ
アルケアの難しさを説
いた。

皆様のご協力の下、『第31回カルチャースクール』を盛大に開催する事が出来ました。当日は、地域住民、ボランティア、湖山病院関係者を含め、約100人が参加され、参加者からは、「来て良かった。」「気持ちが楽になった」等の感想が、多数聞かれました。ご協力ありがとうございました。